

Journal of Biochemistry ランチョンワークショップ

日 時： 9 月 26 日（月） 12:30 ～ 13:20

会 場： 第 3 会場（仙台国際センター会議棟 萩）

主 催： 日本生化学会 JB 編集委員会

【プログラム】

12:30 ～ 12:50

JB の歴史と現状

菊池 章（大阪大学医学系研究科分子病態生化学）

JB は柿内三郎先生が我が国の研究業績を世界の学界に発表する必要性を痛感され、「外字生化学雑誌」を個人で刊行されたことに端を発します。第 1 巻 1 号は、日本生化学会発足（1925 年）よりも早く創刊（1922 年）され、我が国の最も古い英文学術論文誌の一つです。JB は今日まで日本生化学会の英文機関誌として、我が国の研究を世界に発表する場となってきましたが、近年投稿数の減少等の悩みも抱えています。本セミナーは、JB の歴史と現状を会員の皆様と共有し、今後の JB の在り方を議論する場にしたいと思います。

12:50 ～ 13:20

異分野道、始めます！

黒田 真也（東京大学大学院・理学系研究科・生物科学専攻）

現在の生命科学は演者が大学院生のころに比べて実験技術や解析技術が飛躍的に進歩しており、もはや一人の研究者だけで対応することは不可能です。そこでお勧めするのが異分野融合道。いろんな分野の人の力を借りるとそれまでとは視点が全く違えばびっくりな超新地展開が開けます。それはまさにサイエンスの醍醐味を実感する瞬間です。一度経験したらちょっと、いやかなりクセになってしまいます。まずは少し時間を取って異分野の基本的なリテラシーを身につけましょう。素人ゆえの恥ずかしい失敗をやらかしてしまうことは多々ありますが、失敗せずして何かを学ぶことなどできません。異分野道にはサイエンスにとって大切なことが詰まっています。